

121220 カシラダカ

冬の田んぼの畦道を歩いていると...

近くの草むらから数羽の野鳥が、“ぱらぱら”という感じで飛び立ち、落葉した雑木林の中へ逃げ込みました。

ちょうど「スズメ」くらいの大きさ（15 cm程度）で、**赤褐色**の野鳥でした。

しばらく動かないでいると、“危険が去った”と判断したのか、再び草むらに戻ってきて舞い降りました。

そして、地上を跳ね歩くように移動しながら、ときどき冠羽を立てて、草の実を食べていました。

この鳥の名は「**カシラダカ**」、名前から「タカ」の仲間と間違える方もおられますが、頭の羽が逆立っている（頭高）のが命名の理由なのです。

日本には10月頃に「**冬鳥**」として渡ってきて、積雪の少ない地方で、翌年の5月頃まで滞在（越冬）しているようです。

昔は、渡ってくる時期に「**焼き鳥**」の食材として、ツグミと同様、「カスミ網」で大量に捕獲されていたこともあるそうです。（今ではカスミ網の使用は禁止されています！）

さて、この「**カシラダカ**」、日本では“**渡りのシステム**”の研究材料として採用されていたようで、

- ・約13時間の日照時間を境にして“**渡りの気分**”が高まってくる
- ・春には、気温が18℃を超えると“**渡りの気分**”に拍車がかかる

ということが確かめられたそうです...

きっと、日の長さや気温によって「**ホルモン分泌**」が変化した結果、“**そろそろ海を越えて渡りたい**”という気分になってくるのでしょう。

そして、食欲旺盛になって脂肪を蓄える、という“**旅じたく**”が始まるのです。









